



PRESS RELEASE

<報道関係社各位>

2017年6月28日
アディダス ジャパン株式会社

2020年に向け、世界で戦うアスリートを全面サポート アディダス史上国内初のフットウェア開発施設 2017年9月、神戸市にオープン予定

【世界を魅了する日本発の技術や次世代クリエイターの創出を目指すプロジェクトを始動】



※施設イメージ画像

マルチスポーツブランドのアディダス ジャパン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：ポール・ハーディステイ）は、2020年に向け、世界の舞台で戦うアスリートのフットウェアカスタマイズ、およびグローバルで展開する定番商品のフットウェア開発（※1）を行う新たな開発施設（名称未定）を2017年9月に開業予定であることを発表します。この開発施設を基軸に、日本発の技術や次世代のシューズクリエイターの育成などを目指すプロジェクトを始動します。

同施設は、世界最先端レベルの計測、テスト機器、さらにハイスペックの製靴機器を備えた、アディダス史上日本国内初のフットウェア開発拠点です。1999年からアディダスの事業に携わり、「adizero（アディゼロ）」（※2）の生みの親でもあるアディダス シューズ クリエイションアドバイザー 大森敏明氏がディレクターに就任し、選び抜かれた経験豊富なスタッフとともに、次世代シューズの開発を行います。アディダスと大森氏とのコラボレーションを通じ、彼の監修のもと、アスリート向けシューズのカスタマイズサポートを行い、そのノウハウを活かして、ラスト（木型）開発、アッパーデザイン監修、パターン作成を中心とする、グローバル展開の定番商品開発も担います。さらに、全国のアディダスシューズ販売者に対するフットウェア専門教育に加え、世界中のシューズクリエイターに対し、次世代に向けた人材育成を行います。また、同施設は全世界におけるアディダスのアスリートサービス（※3）のネットワークとも連携しており、既に計測済みの選手であれば、そのデータをもとに日本国内にてシューズを製作することが可能です。

アディダスにとってフットウェア事業は、特定の 카테고리 のみに留まらず、ランニング、フットボール、ベースボールなど、ジャンルを超えて、スポーツパフォーマンス事業全体の要となっています。特に、2020 年に向け、今後様々な競技にて日本のスポーツ人口の増加が想定され、さらに日本のアスリートが世界的な大会で最高のパフォーマンスを発揮するためにより充実したサポートを実現すべく、今回の新施設の設置にいたしました。

これにより、アディダスが 2020 年に向けて掲げる、スピード、オープンソース、キーシティを 3 本柱としたビジネス戦略『CREATING THE NEW』を推進するプロジェクトとして、今後アディダスの日本における成長を更に牽引していきます。

※1 世界中で展開する一般商品の開発には様々な工程がありますが、当施設では一部商品のラスト（木型）開発、パターン作成を中心に対応し、ドイツ本社が指揮をとる開発工程の一部をサポートしています。

※2 「adizero」はアディダス ジャパンが開発した、軽量化・スピード、快適なフィッティングを追求したフットウェアコンセプトです。「日本人ランナーに最高のフィット感を提供すること」を目的として、大森敏明氏の協力により、0.01mm 単位までこだわって生み出した究極のラスト（足型）が原型となっています。2005 年に日本で開発して以来、その後世界中で展開され、ランニングのみならず、テニス、バスケットボールなどの幅広いカテゴリーで採用される、アディダスを代表するフットウェアシリーズとなっています。

※3 「アスリートサービス」はアスリートが最高のパフォーマンスを発揮するための最適なプロダクト・サービスを提供することを目的とした施設です。2011 年 10 月にドイツ本社にて開設後、2012 年には米国ポートランド、さらに 2013 年 6 月には東京（六本木）に設置されています。

【新施設概要】 ※名称未定

所在地：兵庫県神戸市内

開業日：2017 年 9 月（予定）

主な利用対象者：アスリート、アディダスフットウェア販売関係者、シューズクリエイター等

主な役割：

- アスリート向けのフットウェアのカスタマイズサポート
- ラスト（木型）開発、アッパーデザイン監修、パターン作成などを中心とする定番商品開発（ドイツ本社が指揮する商品開発の一部の開発工程をサポート）
- 国内の店舗スタッフや販売パートナーへのフットウェアの専門教育全般
- 世界中のシューズクリエイターに対する人材教育

上記全てにおいて、アディダス シューズ クリエイションアドバイザー大森敏明氏が監修。

※詳細については後日改めて公表予定。